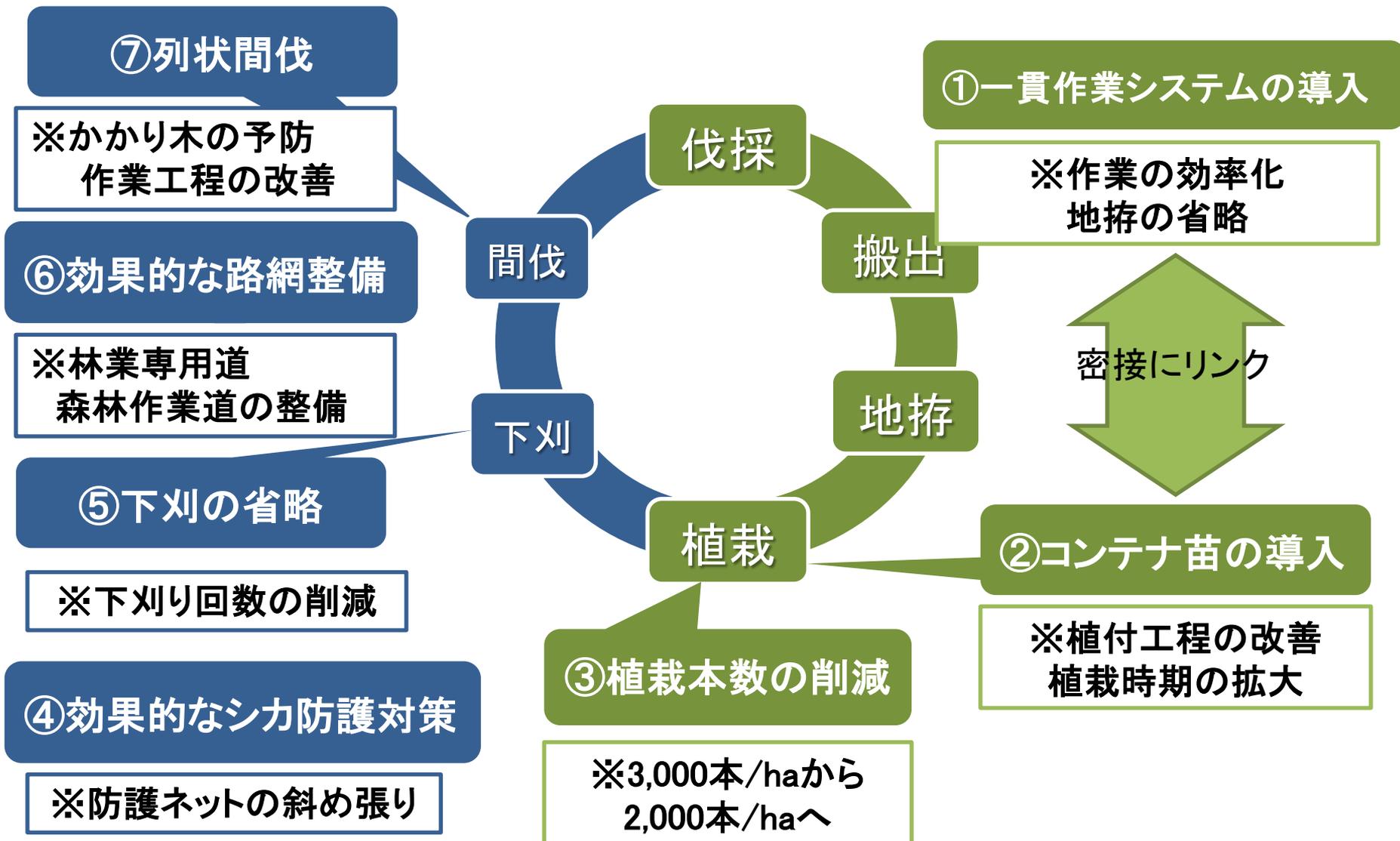


育林の低コスト化に向けた戦略

育林の低コスト化に向けた戦略

育林に係る伐採から列状間伐までを一連の要素として関連付けることにより、効率的な作業体系を構築します。



① 一貫作業システムの導入 (1)

一貫作業システムとは

伐採から造林までを一体的に行う作業工程

従来の作業工程の例

伐採・搬出(夏～冬)

地拵・植付(春又は秋)

伐採から植付まで
を一括して発注

一貫作業システムの工程の例

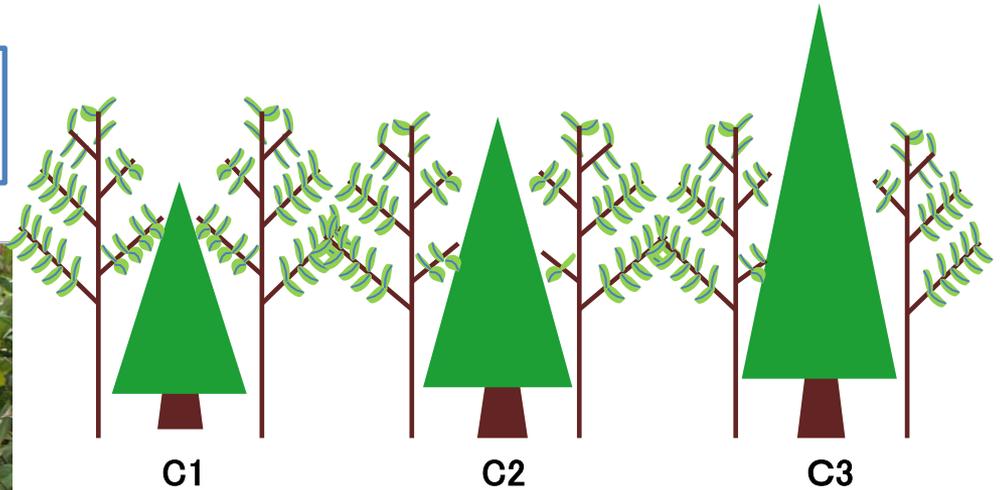
伐採・搬出・植付

(1年目下刈省略)

- ✓ コンテナ苗の採用により植付適期が広がり、伐採直後の植付が可能に
- ✓ 植付を考慮した全木集材、フォワーダによる苗木・シカ防護柵の運搬により、地拵を省略し、植付にかかるコストを大幅に削減
- ✓ 伐採から間を置かず植えるため、雑草が繁茂するまでの時間が長くなり、下刈り回数の削減が可能

⑤下刈の省略

年数にとらわれず下刈の要否を厳格に判断し、真に必要な箇所のみ実施



C1: 植生高が植栽木を上回る

下刈実施

C2: 植栽木と植生高が同じ

下刈検討

C3: 植栽木が植生高を上回る

下刈終了

無下刈試験地(植栽後2年)
岡山森林管理署三光国有林
(国研)森林総合研究所との共同研究

保育の標準的な方法

樹種	作業種	経過年数 (年)															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
スギ	下刈	←	△	○	○	○	○	△	→								
	つる切									←							
ヒノキ	除伐									←							→

△：必要に応じて実施 ○：実施



○下刈の省略

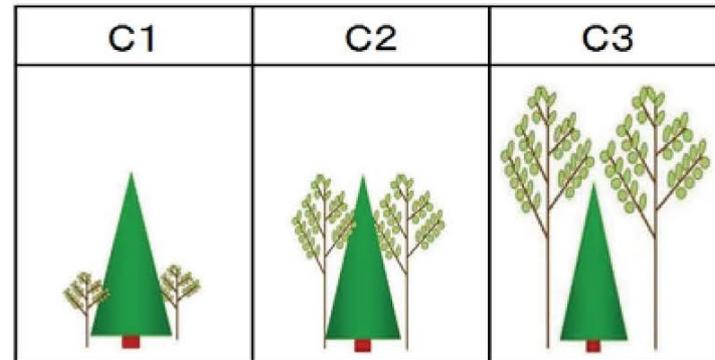
植栽後おおむね5年を目安に実施してきたこれまでの画一的な下刈から、現地の雑草の繁茂や植栽木の生長度合により、植栽木の生育に問題が無ければ全面積または部分的に下刈を省略するほか、全刈から筋刈へ刈払方法を変更することにより保育作業の低コスト化に向けた取り組みを行っています。

平成28年8月には下刈省略に向けた現地検討会を開催し、下刈省略基準の意識統一を図りました。

平成29年度においては、下刈の省略を行った箇所の検証を行いつつ下刈の低コスト化にさらに取り組みます。



下刈省略に向けた現地検討会の開催
(H28.8月、三光山国有林(岡山県新見市))



下刈省略基準図

- C1：樹木の梢端＞雑草木【下刈省略】
- C2：樹木の梢端＝雑草木【下刈省略を検討】
- C3：樹木＜雑草木【下刈実施】